

【高等学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・入試問題研究や授業の教材研究及びICTの利活用など、教職員の学力向上への取組はできているが、引き続き、進路実現に向けた生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育を推進していく必要がある。 ・コロナ禍で校外活動は制限されたが、武雄市とのまちづくり参画事業や探究活動を通じた研究発表、水害後のボランティア活動など、地域や社会に目を向けた活動が積極的に行われた。また、コロナ禍における自己の健康管理や校内の環境美化、本校生としての身なりやマナーの意識づけも良好であった。 こうした本校の活動に対する保護者や地域からの理解が入学選抜の志願者の増加につながっていると思われるが、今後一層、地域に信頼される学校づくりをしていく必要がある。 ・いじめや不登校の生徒への適切な対応はできているものの、多様な生徒への支援を含め、教育相談体制の充実を図る必要がある。また、業務改善や働き方改革を踏まえた機能的、効率的な組織運営については今後も検討していく必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力を持ち、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の実現を目指して、地域や国際社会が抱える課題解決に向けて主体的に行動できる人間性豊かな人材を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	①高い志を抱いた生徒一人ひとりの能力・個性を伸ばし、継続性を持った中高一貫教育の推進 ②基礎から応用までの教科指導の充実や、生徒が深く考える活動を通しての進路目標の実現 ③アクティブ・ラーニングやICT利活用を手段とし、主体的な学習活動ができる授業の推進 ④持続可能な社会の実現を目指し、地域や国際社会が抱える課題解決に向けて主体的に行動することができる人材の育成 ⑤様々な教育活動や生徒支援による、心身の健康の増進と豊かな心や想像力の育成 ⑥保護者や地域との連携を深め、広く共感と信頼を得られる学校づくりの推進 ⑦教職員の指導力向上、働き方改革を踏まえた機能的・効率的な学校運営による組織力の強化
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○教職員の指導力向上	○大学入試研究会を各教科で年2回実施する。 ○各種研修会に10名以上の教職員が参加し、基礎的レベルから応用・発展レベルまで対応できる指導力を身につける。	・大学入試問題研究等の実施によって、より実践的な知識と技能を身につけ、日常の授業への応用を図ることにより、授業内容の改善に取り組む。 ・校外の入試研究会や教科の講習会等に積極的に参加し、入試問題や入試動向等の研究を行う。							進路指導部
	○生徒の実力養成	○全国模試総合偏差値60以上を各学年75名以上にする。 ○1,2年生の全国模試平均偏差値の目標を国・英・数は58以上、地歴・公民、理科は60以上とする。3年生は全国模試平均偏差値の目標を55以上とする。	・学習時間調査、進路希望調査の実施や、「学習と生活の記録」を活用し、生徒の日々の生活状況を把握し、指導に活かす。 ・職員研修の充実による教員の授業力向上を図る。 ・模擬試験を受け、教科担当者会議を実施し、模擬試験の結果を検証し、授業方法を見直し、新たな目標を設定する。							進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の実践	○ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりの心を育てる。校外活動に参加した生徒を1・2年生の50%以上にする。 ○人権教育の全体教育に基づいて授業【人権・情報モラル】を行った教員を80%以上にする。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定して考えさせる。 ・校内外の体験活動の意義を明確にし、関連する情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。 ・武陵祭でのクラス企画などグループ活動を通して、助け合いの心を育む。							企画研修部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの早期発見に努めるとともに、認知事案に対しては早期解決に努める。 ○いじめ防止(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)や教育相談の体制について組織的対応ができていると回答した教員を80%以上にする。	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取り組みを工夫することでいじめの起こらない雰囲気を醸成する。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等により、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速に対応する。 ・心の教育を通して思いやりの心を育成する。							生徒指導部
	○教育相談体制の充実	○教育相談室の積極活用で、年間30日以上 の欠席者数を10名未満にする。 ○生徒が授業に行けるようになることを目標とした声掛けを工夫し、欠課数を極力減らす。	・SCの活用や教育相談連絡会、特別支援教育委員会を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。保護者に対してもSCの利用を勧める。 ・教育相談室を開放し、利用しやすい雰囲気を作る。 ・学びたいが教室に入れない生徒の把握を行う。							保健厚生部
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣と健康の自己管理能力の育成	○校内環境美化と学びの場所(教室等)の整備に努める。 ○健康診断を有効活用し、健康意識の向上を図る。特に歯科・眼科の受診率35%を目指す。 ○内科的要因での保健室利用数の減少を図る。	・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組む、環境保全の意識を育てる。 ・健康診断後の治療勧告書や、保健だより、食育コーナー等の情報を発信する。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・職員会議や教科連絡会で、欠席生徒・授業に出ることが難しい生徒の把握を全職員ができるようにする。						
	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○規則の遵守、防犯・交通安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ○加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演等を実施する。 ・定期的に服装頭髪指導を実施し、高校生としてふさわしい身なりを意識づけ、規則の遵守に努める。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。							生徒指導部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間で平均10日以上 の年休取得、各種休暇の取得の奨励を行う。	・長期休業中に学校閉庁日を設定するとともに、年休や休暇取得の奨励を行う。 ・留守番電話機能やメール及びメッセージ機能を活用し、職員の業務負担の軽減を図る。 ・部活動休養日の設定や交代での指導等を行うことで、部活動での時間外勤務の削減を図る。 ・職員の在校時間を把握し、時間外勤務の多い職員に適宜、声掛けを行う。							副校長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○魅力と活力ある高校づくり	◎★地域との協働活動・校外体験活動等の推進	★武雄市との協働による地域課題解決型探究学習を推進し、唯一無二の誇り高き学校づくりに貢献する。 ◎地域の魅力を理解し、地域の将来を考え、実践する力を育む。 ★武雄市まちづくり参画事業に参加した生徒の満足度を80%以上にする。	・武雄市との連携により地域の現状と課題を理解し、地域課題解決に向け、魅力ある地域活性化プランを提案できるよう「探究Ⅱ」(総合的な探究の時間)等を利用する。 ・武雄市市民協働課のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進展させて地域との協働活動に取り組み、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献する。							企画研修部
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を定員の180%を目標にする。また、第2回進路希望調査で志願倍率1.1倍を目標とする。	・「武雄高校だより」を年間12回以上発行し、生徒の活躍を紹介する。 ・ホームページに生徒の活動を掲載し、随時更新する。							教務部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--